

# 「イクジイ」育児に頼もしい

定年後、地域の子育てに積極的にかかわる高齢の男性が増えている。高度経済成長を支えた世代が中心で、育児に積極的な男性イクメンにならって「イクジイ」と名付けたNPOもある。周りに助けのいない「孤育て」家庭や、仕事で忙しい現役世代を支える頼もしい存在となっている。

午後6時前、神戸市中央区の保育園に楢岡智さん(68)がお迎えにきた。園児の山崎佑太ちゃん(4)と笑顔でおしゃべりしながら帰宅する姿は、いかにも祖父と孫。だが、実は違う。

楢岡さんは、神戸市のファミリー・サポート・センターに「子育てを応援したい」と登録している有償ボランティアだ。仕事で保育園や学童保育の迎えに間に合わない親に代わって子どもを迎えに行き、自宅で預かっている。

市区町村が運営する同様のセンターは全国に600余り。楢岡さんのように登録している男性会員は3535人(2010年度)おり、5年で2倍以上に増えた。60歳代が41%、70歳代が25%と、戦後間もないベビーブーム期に生まれた「団塊の世代」以上が目立つ。

各地のセンターをとりまとめる女性労働協会(東京都港区)の担当者は「定年後、地域に関わりたいと思う方が増え、その

## 孫だけじゃない 地域の子どもお世話

## 有償ボランティア 登録急増

手段の一つと考えているようだ」と話す。

3人の孫の祖父でもある楢岡さんは、60歳で自動車販売会社を定年退職した後、会員登録した。今は、2歳と3の5人を週1回ほど預かっている。1時間700〜800円の報酬を受け取るが、「お金のためという感覚はない」という。「5年間かかっている子もいて、孫のよう。子どもの成長を近くで見られるのがうれしい」

会員になるには事前研修が必要で、神戸市の場合には計12時間受講する。時間と熱意が必要だ。最近、研修を受けた岡田輝夫さん(74)は「年の割に体は丈夫だし、子どもから元気をもらえる」。

孫の世代の育児を楽しみ、地域にも貢献するこうしたおじいちゃんを、NPO法人「ファザリングジャパン」(東京都文京区)は「イクジイ」と定義。

これまで育児に積極的に参加する男性「イクメン」を応援して

きたが、今春、孫育て講座やデジタル講座を開く「イクジイプロジェクト」を立ち上げた。安藤哲也代表(48)は「イクメンは増えたが、仕事で子育てに関われないことも多い。イクジイたちに助けてもらい、イクメンの未来のモデルになってほしい」と話す。

NPO法人「エガリテ大手前」(東京都杉並区)は、沐浴の仕方や離乳食作りなどの孫育て講座を受講した男性をワイン専門家のソムリエと祖父を引っかけ「ソフリエ」と呼び、認定している。昨年2月からこれまでに約60人のソフリエが誕生。こちらも、ほとんどが60歳代だ。

「孫育ての労働力であることを顕在化させたかった」という古久保俊嗣代表(57)はこう見ると、「団塊の世代は戦後民主主義の第1期生で考え方もリベラル。意欲はあるのに仕事に追われ、子育てに関われなかった男たちが今、人生の忘れ物を取り戻そうとしているのかも」

(松尾由紀)



保育園からの帰り道、車が通る四つ角にくるたび、楢岡智さんは山崎佑太ちゃんの手をぎゅっと握った—神戸市